

みしま



よっしゃ、ひっぱれ～！

桐の里町民運動会にて（間方・浅岐チーム）

齋藤茂樹町長 4期目の町政

日本一の桐の里「桐源郷」を目指して…………… P 2

特集◎都市農村交流

田舎のよさって、なんだろう？ …………… P 5

《特別カラー版》老いも若きもパワー全開！

桐の里町民運動会 …………… P18

10
2007

広報みしま No.175

情熱あふれる地域デザイナー 引き続き町政のかじを取る

任期満了に伴う三島町長選挙は9月25日告示され、現職の齋藤茂樹町長のほかに立候補の届出がなく、無投票で4回目の当選となりました。同時に告示された三島町議会議員補欠選挙には立候補の届出がなく、欠員1のままとりました。10月1日、町民センターにおいて当選証書交付式が行われ、小堀正義選挙管理委員長より齋藤茂樹町長へ当選証書が手渡されました。任期は10月15日から平成23年10月14日までの4年間です。

齋藤茂樹町長は、町職員時代から常に町づくりをリードしてきたアイディアマン。特に地場産業と高齢者福祉などに力を入れ、特別養護老人ホーム「桐寿苑」や情報物産館「尾瀬街道みしま宿」、早戸温泉「つるの湯」などの建設、伝統的工芸品「奥会津編み組細工」の国指定、三島産会津地鶏の商品化など数々の施策を実行。一貫して地域資源を活用した経済と暮らしの向上に取り組んできました。3期目では両沼5町村の合併を推進しましたが破談。単独での徹底した財政再建に取り組み、町民との協働による自立の町づくりを進めています。今後も、これまで磨いてきた地域資源を活かして、三島ならではの豊かな暮らしを築いていくことを大きな目標としています。

4選を果たして《齋藤茂樹町長の談話》

「一貫して‘桐の里’づくりを進めてきました。桐は古来より大事にされてきた日本文化の象徴。今も桐の植栽を奨励しているのは、全国で三島町だけです。日本一の桐の里、町中が紫に染まる‘桐源郷’を目指します。また、地域資源を生かした観光・地場産業の振興、町財政の健全化、超少子高齢化に対応した福祉の充実に努め、町民との協働による町づくりを進めます。

3期目では町村合併できると思っていたので、4期目も務めることになるとは予想外でしたが、健康には自信があります。仕上げる任期と思って町政に臨みます。」

齋藤茂樹 町長

さいとう しげき

PROFILE

昭和14年生まれ。会津農林高校卒業後、昭和33年町職員に。昭和56年から63年まで企画課長。その後、平成7年9月まで三島町助役として、常に町づくりの主動的役割を担ってきた。平成7年10月三島町長に初当選、以来4期目。趣味は写真、書、俳句。平成4年に県写真展最高賞を受賞している。三島町宮下在住、母と長男夫婦、孫3人の7人家族。68歳



10月15日、いつものようにカメラを片手に初登庁し、職員に出迎えられる齋藤茂樹町長（中央）



4期目の町政に臨む
齋藤茂樹町長
(役場町長室にて)

日本一の桐の里
「桐源郷」を目指して
齋藤茂樹町長 4期目の町政

特集◎都市農村交流

田舎のよさって なんだろう？

今、田舎暮らしを求める都市住民が増えています。従来の観光に加え、しばらく滞在して「ふだんの暮らし」に直接ふれるような「都市農村交流」が全国各地で展開されています。では、なぜ人々は田舎がいいと思うのでしょうか。田舎に住む私たちの暮らしの魅力とは何でしょうか。「田舎のよさ」について考えながら、都市農村交流にかかわる活動取材しました。

町長就任 あいさつ

住民参加と地域資源を大切にするエコ・ミュージアム 理想のふるさと「桐源郷」の実現を

三島町長 齋藤 茂樹 (平成十九年十月十五日)



今日から、私にとって四期目がスタートしました。「ふるさと運動」以来、三十数年の歴史を踏み台として、町づくりの大きな飛躍の任期にしたいと思っています。

先日の町民運動会では、多くの町民の皆様元気な顔を見ることができました。この元気があれば、町は大丈夫だなと感じました。また、このたび三島町は、過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣賞を受賞しました。今後の町づくりに向けた大きな励みです。さらに今、町に残る民俗行事が国から注目されています。このような貴重な伝統文化を守りながら、地域の活性化を図りたいと考えています。

四期目の目標は、まず財政再建です。町民の皆様に理解を求めていきたいと思っています。次に、産業振興と経済の活性化です。私は常々、「森」と「農」が会津地方の基本であり、農林業の活性化を県に強く要望してきましたが、今

後も継続して呼びかけていきます。

三島町では、「ふるさと運動」の理念を保ちながら、そこから生まれた生活工芸運動や地区プライド運動など、様々な成果を上げてきました。それらの地域資源を「エコ・ミュージアム」として総括し、町民の皆様に理解と協働の活動を促し、都市に向けても発信し、交流人口を増やしていきたいと考えています。そのような町づくりを行う上で、私は三島町を「桐源郷」と名づけ、会員制度なども考えながら、地域内外の方々と共に理想のふるさとを目指します。桐は、これまで木材として考えてきましたが、これからは紫の花が咲く風景として、また、世界的な問題となっている地球温暖化対策として、二酸化炭素削減の環境効果等も視野に入れていきたいと思っています。

て、最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました。小規模校だからこそできた快挙だと思います。今後も小規模校ならではの日本一の教育を目指し、農山村のモデル的な学校をつくりたいと思います。そのような教育が若者定住や企業育成などにつながっていく可能性があります。もう一歩前進することによって、よそには無い三島のよさを出すことが大事です。

一昨年、制定した「町づくり基本条例」には、町政の大事な基本が示されており、何でも町民の皆様と話し合って同意形成を図り、本当によい政策を考え出すためのキャッチボールをして、協働の町づくりを進めて参ります。

町民の皆様の「安全・安心」の暮らしを築き、何より「健康」を一番の柱として町政に臨みます。四年間、よろしくお願いいたします。

田舎のよさは 農にあり

農村の暮らしを見直す若者たち

農村にそこがれを持つ二十代、三十代の若者たち。彼らは、便利な都市生活を送りながらも、農村文化にふれようとしています。「農業ボランティア」も、そのような活動の一つです。



ECO MUSEUM PROJECT
三島町エコ・ミュージアムプロジェクト

六名の若者が 大谷にやってきた

十月六日、大谷地区に※農業ボランティアとして六名の若者たちが、いわき市からやってきました。受け入れた同地区の五十嵐富一さんは、米、そば、大豆、じゃがいも、大根などを作る農家。福祉関係の仕事との兼業で営んできました。今年二月に定年退職。会津農林事務所で行っている「※会津ワーキングホリデー」の受け入れ農家に登録し、今回初めてボランティアを迎えました。

をはじめ、妻のイセ子さん、同地区の二瓶譲さん・恵美子さんご夫妻と五十嵐恵さん。一日目は稲の脱穀作業、二日目と三日目は、そば刈り作業を行いました。見上げれば青く澄んだ秋空。里山に囲まれた静かな世界で、黙々と続く農作業。ボランティアの六名は何を感じたのでしょうか。

食の問題意識 農業の大切さ

ボランティアの一人、いわき市で教員をされている野地宏さんは、「ふだんは消費するだけ。農業とは無縁の生活です。このような作業をすることは、ありません。食べ物のあり

※農業ボランティア
人手を必要とする農繁期の農家の手伝いをする人。多くは農業に関心の高い都市住民などです。農家が宿泊場所や食事を提供するものや、必要最低限の賃金を支給する「ボラバイト」など、様々な形態があります。

※会津ワーキングホリデー
本来ワーキングホリデーとは、海外で休暇を楽しみながら、滞在資金を現地で補うために就労することを認める制度です。「会津ワーキングホリデー」は会津農林事務所の事業で、会津地方の農家のもとで、希望者がボランティアで農作業を体験できるものです。ボランティアの方の宿泊場所と食事は、農家が提供します。

アの皆さんは、それぞれ食べ物に対する問題意識を持ち、農業の大切さを日頃から感じているようです。重労働も苦にせず、汗を流すことを楽しむように作業する彼らの姿を見て、逆に田舎のよさを教えられた気がします。



↑「さで」から稲をおろし脱穀作業へ。



↑2日目の朝は、そば打ちも体験。

農業体験から 次の実践へ

大谷で二泊三日を過ごした若者たち。その交流は、これで終わりではありません。十一月十八日に開催される恒例の「おおたに新そばまつり」に、五名が手伝いに来てくださるそうです。農業体験によって、農村の暮らしを肌で感じ、地元住民とあたたかい交流ができたからこそ、「また来よう」という気持ちが出るのではないのでしょうか。町内でも少子高齢化が著しい大谷地区。この山里で、農業ボランティアをきっかけとした新しい都市農村交流が始まろうとしています。



↑野山に囲まれてひと休み。
働いた充実感が漂う。

Interview

おおたに新そばまつりも手伝いに来ます

星野浩子さん（いわき市）からのメール

ほしの ひろこ 農業ボランティア

どうもありがとうございます（＾＾）先週の土曜日に、お土産にいただいたかぼちゃでプリンやキッチンなどを作って「かぼちゃパーティー」を開き、大谷での写真を見ながらみんなで語り合いました。とっても美味しいかぼちゃでした。11月の「そばまつり」には、私含め5人で参加します。またお世話になります。ではでは。

そば刈りをする星野さん→



Interview

空き家を活用して都市農村交流の輪を広げたい

五十嵐富一さん（大谷）

いがらし よしいち 60歳 農業ボランティア受け入れ農家

初めて農業ボランティアを受け入れましたが、皆さん大変がんばってくれました。11月の新そばまつりにも手伝いに来てくれるということで、とても嬉しく思っています。今後も年間4、5回、季節に応じてボランティアを受け入れ、交流の輪を広げていきたいです。それには空き家の維持管理をしっかりとすることですね。そば畑のオーナー制なども考えています。また、町内の皆さんにも関心を持ってもらい、都市農村交流の活動が広がることを願っています。



田舎のよさは食にあり

食文化と女性の元気が地域をつくる

今や誰もが抱える健康の不安＝食の不安。
農村の郷土料理は、栄養が豊富で「食育」の面からも注目されています。
そして、地域の食文化を継承し、家族の健康を守ってきたのは女性たちです。



ECO MUSEUM PROJECT
三島町エコ・ミュージアムプロジェクト

いつもと違う！

敏腕講師の料理教室

十月十一日、町民センター。料理教室と聞いて集まった二十数名の女性の皆さんは、少々戸惑い気味。役場からの案内の電話は、いつもと違って総務課や産業建設課の男性の声。さらに、家にある食材を何でもいいから持って来てと言われ、何を作るのかもわからないまま、里芋や大根葉、なす、かぼちゃ、ピーマン、ぜんまい、ゴーヤーなど、各家でとれたものを持ち寄りしました。いったいどんな料理教室が始まるのでしょうか。

講師は、熊本県人吉市で郷土の家庭料理の店を経営する本田節さん。快活で笑顔の絶えない方です。持ち寄った食

材を眺めた本田さんは、その場で十三品のメニューをさらさらと紙に書きました。

「あるものでどう作るかが家庭の知恵ですよ。私、料理の専門家ではないんですが、何と何を組み合わせればいいかは、先人たちが家庭料理を通して伝えてきたことなんです。ヒントは、皆さんがふだん作っている家庭料理にあるんですよ。」

とも言われます。キクラゲは薬膳料理の王様、七割もミネラルを含んでいるんです。」本田さんのいきいきとしたトークは止まりません。

栄養が豊富で物語のある食文化

「たとえば、かぼちゃはベータカロチン、糖尿病にいいんです。夏野菜は夏ばて防止、回復力促進。ゴーヤーはビタミンCが豊富で、癌を抑える

それが地域のおもてなしになるんです。」

参加者の皆さんは、本田さんの指導のもとに手際よく料理を進めました。材料は各家から持ち寄った食材と、普通の調味料だけ。愛情とチームワークで、彩り豊かな創作料理が出来上がりました。

レシピの一例

里芋のとも和え

【材料】里芋・ささぎ・味噌・砂糖・スキムミルク・すりごま

【作り方】里芋は一口大に切って柔らかくなるまで茹で、半分の量をすりこぎですりつぶし、味噌・砂糖・スキムミルク・すりごまで味をつけて和え衣を作る。残りの里芋を加えて和える。

《創作料理十三品》
・会津地鶏のみのこ揚げ
・ゴーヤーの味噌詰め天ぷら
・秋野菜の揚げ煮・南蛮漬
・きくらげとヤーコンのきんぴら
・秋野菜の白和え
・里芋のとも和え
・きくらげのおさしみ
・秋野菜のサラダ
・新じゃべつときくらげの中華あえ
・かぼちゃの団子汁
・かぼちゃのスープ
・かぶのお漬物
・愛情おむすび



↑好評だった里芋のとも和え（写真手前）など、持ち寄った食材だけで作った栄養たっぷりの創作料理。「これで100人のパーティーができますよ。」と本田さん。家庭でもすぐ作れるものばかりだ。



↑料理のアイデアを次々と出す本田節さん（右）。参加者の方々は熱心に耳を傾ける。

女性が主役 食の地域振興

「女性の元気が地域の元気だと私は思います。六十、七十歳なんてまだまだですよ。」本田節さんが熊本で経営するレストランは、地元的女性が働く職場です。合言葉は、待ってました定年！六十歳、新入社員！生涯現役！

三島町にも「カタクリの会」など、食をテーマに活動している女性の皆さんがいます。各家庭でも、価値ある田舎の食文化をもう一度見直すことが大切ではないでしょうか。

参加者の声

二瓶ミイ子さん（大谷）
二瓶ヨシ子さん（大谷）

いつもと同じ材料で、これだけの品数ができるのかと驚きました。家でも作ってみたいです。

小堀サイさん（西方）

自分で作った野菜で、こんなに料理ができることがよかったです。

※この料理教室は、東北電力の地域づくり支援制度「まちづくり元気塾」の補助を受けて開催しました。

田舎のよさを

未来へつなぐ

農山村は資源豊かな学びの場

農文化や食文化など、暮らしの中に見え隠れする田舎のよさ。それらを地域資源として掘り起こし、未来の豊かな暮らしにつなげようと、「三島町エコ・ミュージアムプロジェクト」が動き出しています。

奥会津の魅力を再発見する

現在、「※三島町エコ・ミュージアムプロジェクト」の主催で「奥会津案内人講座」が開催されています。この講座は奥会津の自然・人・文化・歴史などを学びながら、インタープリター（案内人）として都市と農村の架け橋となる人材を育てることが目的です。八月から始まり、来年一月までに全五回、六十五時間のカリキュラムで構成されています。受講者は、町民が三名、町民外が五名の計八名。講座全体をコーディネート

する、東京のNPO法人「環境文化のための対話研究所」代表の嵯峨創平さんは、「案内人育成と言っても受講者の動機は様々。この学びの場を通して奥会津地域に深くふれあい、様々な魅力に気づくきっかけとしてもらえればと思っています。やがては、本当の意味で『田舎のよさ』を引き出すような交流活動につながると思っています。」と話します。

講師として、三島町文化財専門員の角田伊一さん（川井）や、ネイチャーガイドの海老名健さん（松原）、齋藤茂樹町長からも講話をいただき、地域の歴史文化等を学んでいます。受講者の一人、埼玉県所沢市の渡辺朋子さんは、「三島町の郷土料理や伝統行事、桐の風景などには、心あたまる魅力があります。また、お年寄りのお話がとてもおもしろいです。次回は台所におじゃまして、一緒に料理をしてみたいですね。」と積極的。都市住民の目に映る田舎の伝統的な暮らしは、とてもあたたかく、とても豊かなものです。

学びの場は地域を越えて

「三島町エコ・ミュージアムプロジェクト」では、広域的にも学びの場を求めて活動しています。十月二日、町民に参加を募って実施した山梨県北杜市への研修では、NPO法人「えがおつなげて」が主催する「※箱膳食育イベント」を視察。ものを大切に扱う心や食事作法、栄養バランスなどを学びながら、農村の郷土料理を味わうイベントです。十二月には、三島町でも開催されます。

食育は、今や重要な暮らしのテーマ。ここでも郷土料理という「田舎のよさ」が見直され、その活動は全国に広がっています。

Interview 奥会津案内人講座



受講者 菊地陽子さん（中平）

講座を通して奥会津の歴史にふれ、地域の行事や野山の花々など、注意深く見てみるいろいろな発見があります。参加者によって捉え方が違うこともおもしろく、奥会津の地域資源は、様々な可能性を秘めていると思います。

※箱膳

自分専用の飯茶碗、汁碗、小皿、箸が入った木製の箱。江戸時代から昭和初期頃まで、家庭で使われていました。

※三島町エコ・ミュージアムプロジェクト
町民及び町職員からメンバーを公募した新しい形のグループ。住民参加と地域資源を基本とするエコ・ミュージアムの考え方をもとに、農山村の暮らしを見つめる様々な「学びの場」を創出しています。
図 役場 産業建設課 産業係 Tel48-5533
<http://www.town.mishima.fukushima.jp/eco/>

ECO MUSEUM PROJECT
三島町エコ・ミュージアムプロジェクト



↑奥会津地域に対するそれぞれのイメージを自由に描いた「奥会津まんだら」を囲んで、地域資源について語り合う。こうした学びの場が、田舎のよさを未来へ伝えることにつながっていく。（奥会津案内人講座にて）

お知らせ 第9回 東北環境教育ミーティング

奥会津人材育成ネットワーク集会2007

奥会津に広がる豊かな自然と伝統文化を学び、地域の未来を考える集会です。公開講座がありますので、どなたでもご参加ください。

公開講座 11月23日（祝）交流センター山びこ

午後2時15分～ オープニング鼎談セッション

『創造的な地域のための戦略モデルを考える』

【ゲスト】敷田麻実氏（北海道大学観光学高等研究センター教授）
高木晴光氏（北海道黒松内 NPO法人ねおす代表）

午後4時～ 基調講演

『只見川の自然は世界遺産級』

【ゲスト】新国 勇氏（只見町 只見の自然に学ぶ会代表）

主催/只見川電源流域振興協議会

奥会津人材育成ネットワーク集会実行委員会

共催/東北環境教育ネットワーク

社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）

協力/自然体験活動推進協議会（CONE）

※この事業は、電源立地地域特別交付金事業により実施します。



↑山梨県北杜市須玉町で行われた「箱膳」の食事体験。箱の上には、とれたての地元野菜を使った料理が並ぶ。12月9日には、桐で作った箱膳を使い、三島町でのイベントを行う予定だ。

●取材を終えて

田舎のよさが生み出す新たな都市農村交流

大谷地区にやってきた農業ボランティアの若者たち。

「農」を通じて地元住民と交流する彼らには、現代の「食」に対する問題意識がありました。本田節さんが広める地域の食文化は、先人たちの知恵や地域の女性の元気と共に、「農」と深くかわっています。決して切り離して考えることのできない「食」と「農」。

田舎には、その両方が当たり前のように暮らしの中にある。それが都市にはない「田舎のよさ」ではないでしょうか。さらに、農山村の自然や歴史、伝統行事、生活の知恵など、ふだんの暮らしの中にあるものすべてを地域資源として、未来の豊かな暮らしにつながるとする学びの場が生まれています。

取材を通して、地域内外の人々と出会い、都市と農村に対する様々な見方、考え方にふれ、その交流の楽しさと充実感を感じました。田舎のよさを探し、活かしていく活動が、都市農村交流の新しい風となつて、地域を元気にしていきます。

（北館）

特別会計の決算

町には、7つの特別会計があり一般会計とは別にその会計ごとの収入で支出を賄うことを基本にしています。しかしながら、以下（右欄）の通り一般会計からの繰出金が大きなものとなっていることから、今後は適正な受益者負担の見直し等を行うことにより歳入を確保し、一般会計からの繰出の削減も課題と考えられます。

特 別 会 計	歳入決算額	歳出決算額	一般会計からの繰入
国民健康保険特別会計	2億8,721万円	2億7,169万円	3,478万円
簡易水道事業特別会計	1億2,880万円	1億2,731万円	7,508万円
路線バス事業特別会計	2,049万円	1,994万円	399万円
老人保健特別会計	4億1,882万円	4億 445万円	5,474万円
農業集落排水事業特別会計	3,750万円	3,715万円	2,279万円
介護保険特別会計	2億3,969万円	2億2,217万円	3,849万円
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	6,387万円	6,259万円	2,322万円

基金の状況

町には、財源の不均衡を調整するために積み立てておく財政調整基金や各種特定目的基金があります。年度末の残高の比較は以下のとおりです。

年度	財政調整基金	基金合計
18	2億1,377万円	2億2,396万円
17	2億1,363万円	2億2,382万円
16	1億9,209万円	2億 936万円
15	2億 104万円	2億9,451万円
14	1億9,488万円	3億3,222万円
13	2億 424万円	4億2,458万円
12	1億6,819万円	3億6,866万円
11	2億4,913万円	4億8,789万円
10	1億6,877万円	4億3,870万円

地方債の状況

建設事業等の町の事業を行う際に、過疎対策事業債をはじめ一般公共事業債や災害復旧事業債等の国からの借入を行っています。現在償還（返済）している地方債の残高は以下のとおりです。

会 計 名	平成18年度末残高
一 般 会 計	28億 477万円
簡 易 水 道 事 業 特 別 会 計	7億6,516万円
農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計	2億4,470万円
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	1億9,579万円
合 計	40億1,042万円

18年度はこのような事業を行いました（一般会計）

総務費（全般の管理事務費、広報・選挙など）

桧原多目的集会所改修工事	273万円
役場玄関ポーチ改修工事	273万円
福島県知事選挙	531万円

民生費（児童・高齢者・障害者・福祉・保育所など）

社会福祉協議会補助金	576万円
高齢者生活福祉センター運営	473万円
各種扶助費（障害者支援費事業・児童手当等）	3,182千円

衛生費（保健・衛生・ごみ・し尿処理など）

各種検診	949万円
三島町外二町一ヶ村衛生処理組合負担金	1,881万円
塵芥収集車購入	779万円

商工費（観光・商工会など）

観光協会補助金	349万円
商工振興事業（商工会運営補助）	288万円
桐の里商品券事業	100万円

土木費（道路の整備・住宅など）

川井居平宮ノ上線改良	3,851万円
三島大橋点検調査	210万円
除雪作業	1,003万円

農林水産業費（農業・林業の管理など）

林道大山美坂高原線開設	1,225万円
森林管理道寺沢線整備	5,439万円
農道・集落内生活道路整備事業（原材料支給・4地区）	288万円
中山間地域等直接支払事業（10地区13協定）	684万円
森林整備地域活動支援交付金（現況調査・間伐）	143万円
ともに育むつくしま里づくり事業（農道整備・2地区）	141万円

消防費（消防署・消防団など）

早戸地区防火水槽設置工事	612万円
会津若松地方広域市町村圏整備組合負担金	4,613万円

教育費（学校の管理など）

三島小学校体育館屋根防水工事	252万円
三島中学校体育館屋根塗装工事	502万円

災害復旧費（災害の復旧）

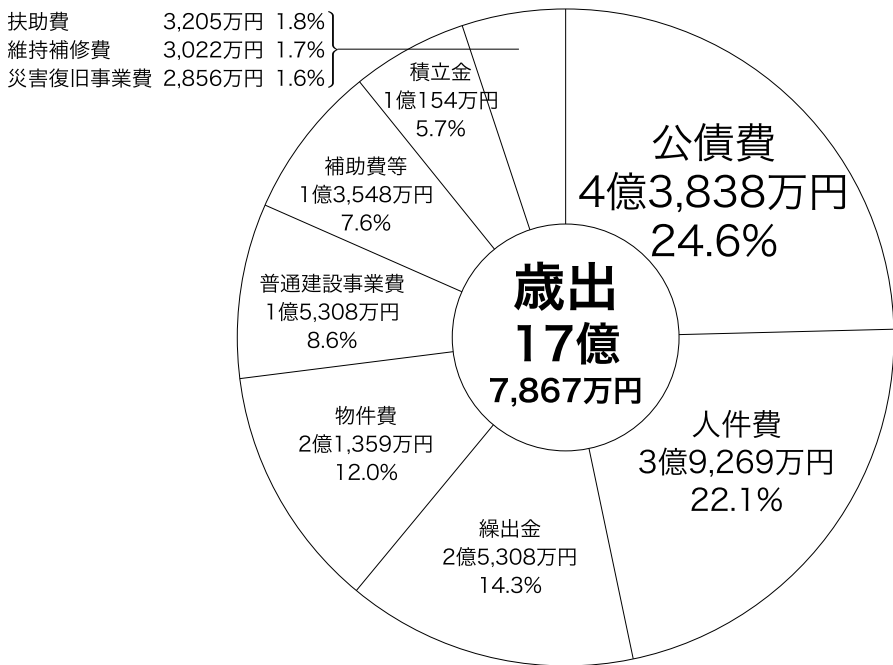
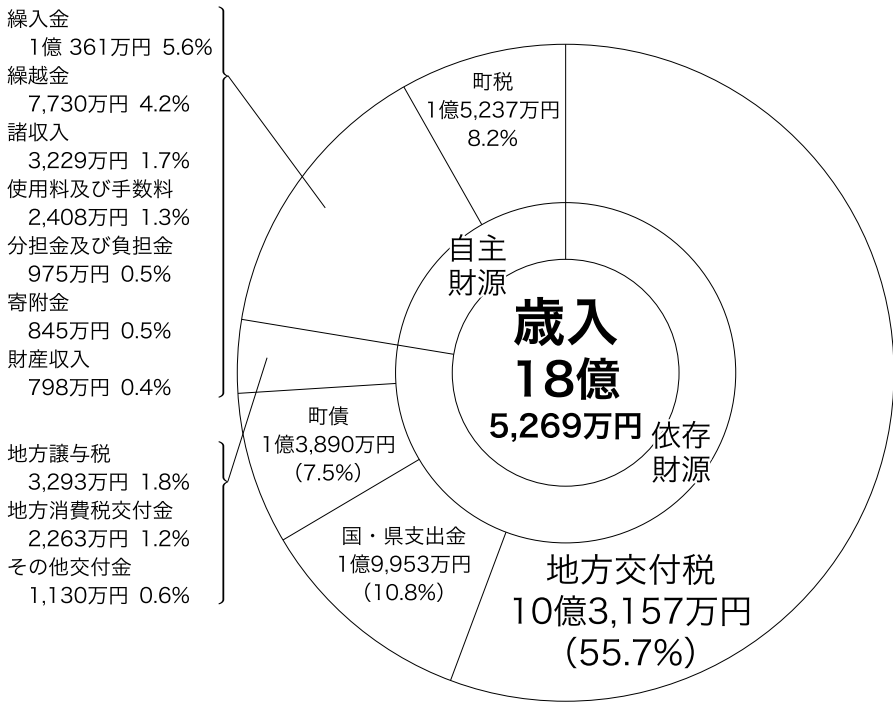
農地災害	481万円
農業施設（農道）災害	457万円
公共土木（道路）災害	1,900万円

公債費（借金の返済）

元金	3億8,839万円	利子	4,999万円
----	-----------	----	---------

～歳入の77.6%は依存財源、地方交付税が55.7%～

一般会計における平成18年度の歳入は18億5,269万円となり、前年度の20億2,960万円と比較して8.7%の減となりました。歳入の最も多いのが地方交付税で、全体の55.7%を占めている状況で、自主財源の乏しい当町としては、今後歳入の確保が課題となっています。



～人件費と公債費で46.7%、対前年比△8.9%の緊縮財政～

平成18年度の歳出においては17億7,867万円となり、前年度の19億5,230万円と比較して8.9%の減となりました。人件費と公債費で46.7%を占め、国の三位一体改革が進み財源確保が厳しい中、町では約40億円の借金を返済しながら、限られた予算で住民サービスをしなければなりません。

歳入

歳出

三島町の財源は、町民の皆さんから納めていただく税金、国や県からの補助金や交付金、そして事業を進めるために町が借受ける町債等で成り立っています。平成18年度の決算を報告し、皆さんから納めていただいたお金がどのように使われたのかをお知らせいたします。



↑絵本を読み聞かせる五十嵐乃里枝さん（右）と夢中で聞き入る子どもたち

感性を育てる絵本の世界へ

「絵本とお話の会」

10月9日、町民センターの図書室で、「絵本とお話の会」が開かれ、小学生の子どもたちが集まりました。この日、絵本を読んできたのは、五十嵐乃里枝さん（大谷）と轡田倉満さん（宮下）。「蜘蛛の糸」などの絵本を読み聞かせ、子どもたちは夢中になってお話に聞き入っていました。

子どもの感性を育てる絵本の世界。目を輝かせて絵本を見る子どもたちの姿は、とても微笑ましいものでした。



↑ふれあい市で野菜を販売する二瓶ミイ子さん

新鮮野菜がたくさん 宮下駅前の「ふれあい市」

野菜を作っている町内の10名のグループの皆さんが、交替制で旬の農産物を販売する「ふれあい市」を宮下駅前行っています。里芋、さつまいも、かしらいも、ゴーヤー、栗、ハヤト瓜など、収穫したばかりの様々な農産物が並んでいます。

「今日は朝6時半に出てきました。夏は涼しくていいけど、秋の朝は寒くて大変。宮下の人たちがけっこう買ってくれるのよ。」と話すのは、この日当番だった二瓶ミイ子さん（大谷）。50種以上の野菜を作っているそうです。この「ふれあい市」は、5月から11月まで行っており、水・土・日曜日はお休みです。



↑町内の飲食店や旅館を巡回し、飲酒運転撲滅を呼びかけた「交通安全母の会」などの皆さん（栄光館にて）

同乗者・提供者にも厳罰！

飲酒運転を根絶しよう

9月28日、交通安全母の会等の皆さんが、町内の飲食店や旅館を巡回し、利用客に飲酒運転をさせないように呼びかけました。道路交通法の一部改正により飲酒運転が厳罰化され、ドライバーだけでなく、同乗者や車・酒類の提供者も罰則の対象となります。たとえば、酒酔い運転の場合、

●ドライバー（即、免許取消）

5年以下の懲役

または100万円以下の罰金

●車の提供者

5年以下の懲役

または100万円以下の罰金

●酒類の提供者・同乗者

3年以下の懲役

または50万円以下の罰金

飲食店等を経営されている方も、飲酒運転する恐れのある人に対して酒類を提供すれば罰せられます。飲酒運転を絶対にしないことはもちろん、絶対にさせない意識を強く持つことが、地域全体の飲酒運転根絶につながります。



（上）家族や友人と共に地鶏のバーベキューを味わう。

（右）大勢が注目する中で大変盛り上がった「会津地鶏蕎麦きれいに早食いレース」。蕎麦には地鶏のガラが入っていて、早いだけでなく、いかにきれいに食べられるかを競った。



高原の秋空のもと 地鶏味わう 第6回 会津地鶏まつり

10月7日、第6回会津地鶏まつりが美坂高原で開催され、約1,000人が来場しました。会場では、前売り券と引き換えに地鶏1羽分と新鮮野菜、炭とコンロが準備され、バーベキューを味わいました。同時に美坂高原の新そばも出され、秋の味覚を満喫。また、温泉入湯券や新米などの商品をかけた「会津地鶏雞ピヨピヨレース」や「会津地鶏蕎麦きれいに早食いレース」、「桐下駄飛ばし大会」が行われ、まつりを盛り上げました。この日は気持ちのよい秋晴れとなり、訪れた皆さんは高原のおいしい空気と共に、おいしい地鶏を存分に味わいました。

三島町産会津地鶏は、飼育から加工まで一貫して町内施設で行われており、年間1万羽ほど出荷しています。会津地鶏の生産としては「日本一」です。こだわりの餌と豊かな自然の中でのびのびと飼育し、安全と美味しさを追求しています。 図 会津地鶏みしまや TEL 0241-48-5860

「中秋の名月」のお供え15品

70年間、毎年お供えしている栗城博子さん

「中秋の名月」の9月25日、栗城博子さん（宮下）のお宅では、立派なお供え物をしていました。だんご、さつまいも、きゅうり、なす、みょうが、いんげん、トマト、ピーマン、あけび、ししとう、かぼちゃ、ぶどう、栗、なし、柿の15品。だんごは1個に1合の粉を使った特大で、これも15個。そこにススキを添えて、色鮮やかなお供え物です。

「生まれてから70年、実家にいたときも嫁いでからも、毎年お供えしてるのよ。」と博子さん。

これも農村ならではの生活文化、「田舎のよさ」の一つではないでしょうか。

←毎年、「中秋の名月」の日にお供え物をしている栗城博子さん



広報誌に載っている写真は希望者に差し上げますのでご連絡ください。

●役場 総務課 企画財政係 TEL 48-5515

みんなで健康づくり《教室・健診の予定》
 〇 役場 町民課 保健福祉係 TEL 4 8 - 5 5 6 5

10月31日(水) 13:30～ 町民センター
 町民公開講座「人工透析にならないために」
 講師 公立藤田総合病院 腎臓内科科長
 佐藤啓二 先生

11月 8 日(木)13:00～ 町民センター
 「乳児・1歳6ヶ月児・2歳児健診」

11月 9 日(金) 9:30～
 「フォローアップ教室～紅葉の西方街道を歩こう」

11月12日(月)13:30～ 町民センター
 「第5回スッキリサラサラ教室」

11月13日(火)11:15～ 坂下厚生総合病院
 「3・4ヶ月児健診」

11月20日(火)13:30～ 町民センター
 「からだげんき運動教室」

「介護予防教室」
 11月 6 日(火) 9:30～ 町民センター
 11月22日(木) 9:30～ 町民センター

「足腰げんき教室」
 〇水中運動編(西会津さゆり公園プール)
 11月14日(水)13:00 町民センター集合
 〇室内運動編(町民センター)
 11月26日(月)13:30～



会津坂下警察署からのお知らせ

三島町では9月中、犯罪は発生しませんでした。全国的に、金属の盗難が多発していますのでご注意ください。

三島町内街頭犯罪等発生状況(1～9月)

区 分	管 内	三島町
空き巣ねらい	1	
忍 込 み	1	
事 務 所 荒 し	4	1
出 店 荒 し	2	
自 動 車 盗		
オートバイ盗	1	
自 転 車 盗	13	
自販機ねらい	3	2
車 上 ね ら い	3	
街 頭 犯 罪 計	28	3
全 刑 法 犯	103	4

火 災 予 防

「火は見てる あなたが離れる その時を」
 秋季全国火災予防運動
 11月9日～11月15日

秋は、火災が起きやすい季節です。我が家の火災予防を見直して、地域ぐるみで無火災を目指しましょう。



ストーブの上に
洗濯物を干さない！



料理中は
絶対に離れない！



寝タバコは
絶対にしない！

会津坂下消防署三島出張所 TEL 5 2 - 3 0 3 2

これからの行事予定

10月28日(日)
 10:00～ 三島町消防団秋季検閲式(町民運動場)
 10月30日(火)
 10:00～ 三島町戦没者慰霊祭(町民センター)
 11月 3日(祝)
 10:00～ 三島町文化祭(町民センター)
 11月 6日(火)
 講演会「悪徳商法に御用心」10:00～ 西方ふるさとセンター
 13:30～ 町民センター
 11月 7日(水)
 10:00～ ワンダークラブ(三島保育所)
 11月 9日(金)
 9:00～ 高齢者交通教室(町民センター)
 11月11日(日)
 8:40～ 三島町消防団防火パレード(町内全域)
 11月18日(日)
 10:00～ おおたに新そばまつり(大谷活性化センター)
 11月23日(祝)
 13:30～ 会津西部総合演芸大会(町民センター)
 14:15～ 奥会津人材育成ネットワーク集会2007
 公開講座(交流センター山びこ)

10月の納税
 町県民税(普通徴収) 第3期

年 末 調 整

年末調整説明会のお知らせ
 会津若松税務署

平成19年分の年末調整関係事務の説明会を下記のとおり開催しますのでご参加ください。

〇日 時 11月13日(火)
 午後1時受付開始 午後3時終了

〇場 所 金山町開発センター

〇対象地域 三島町・金山町・昭和村

〇 会津若松税務署 法人課税第一部門

TEL 0 2 4 2 - 2 7 - 4 3 4 6

就 職

「ふくしま大卒等合同就職面接会」のご案内
 福島労働局

平成20年3月に、大学院・大学・短大・高専・専修学校等を卒業予定の方、平成19年3月にこれらの学校を卒業された方を対象に、県内150事業所(予定)の就職面接会を開催します。

〇日 時 11月28日(水)
 午後1時～午後4時

〇場 所 ビッグパレットふくしま(郡山市)

〇その他 事前申込は不要です。
 参加事業所は、11月上旬に福島労働局のホームページで公開します。

〇 郡山公共職業安定所
 TEL 0 2 4 - 9 4 2 - 8 6 0 9

福島労働局 職業安定課

TEL 0 2 4 - 5 2 8 - 0 3 6 6

ドクターヘリ

来年1月からドクターヘリを運行します
 福島県立医科大学附属病院

ドクターヘリは、救急現場に直ちに医師や看護師を派遣し、救急患者の治療をいち早く開始すると共に、救急専用の医療機器を装備した機内で治療を行いながら、高度な医療機関へ短時間で搬送するヘリコプターです。救命率の向上や後遺症の軽減が図られ、県民の安全かつ安心な暮らしが守られます。
 ※出動要請・・・消防機関の要請により出動します。県民から直接要請することはできません。

献血のご協力 ありがとうございました

今年度の三島町の献血者数は、春と秋、合わせて107名となり、町民の皆様のおかげで目標を上回ることができました。ありがとうございました。県内では、依然として深刻な血液不足が続いています。今後ともご協力をお願いいたします。



三島町役場 町民課

地 域 医 療

平成19年度
 「県民地域医療フォーラム」
 参加者募集

福島県立医科大学では、地域に生き、地域の人々と暮らす医師を育成するため、文部科学省からの補助を受け、地域の一般家庭でのホームステイ研修を中心とした「ホームステイ型医学教育研修プログラム事業」をこれまで実施してきました。

本フォーラムは、これまでの事業成果を県民の皆様に報告し、また、今後も引き続き、地域・関係機関・医科大学等が一丸となり「地域に生きる医師」の育成を推進していくために開催するものです。

〇日 時 11月16日(金)
 午後1時30分～午後4時30分

〇場 所 三春交流館まほら
 (田村郡三春町字大町191)

〇内 容 特別講演
 『沖縄県の離島医療』
 沖縄県立中部病院 山川宗一郎先生
 講 演
 『地域に生き・地域で働く』医師を育てる喜び
 福島県立医科大学 地域・家庭医療部
 教授 葛西龍樹先生

※当日は、送迎バスを運行します。
 (行き) 役場前発 午前10時55分
 (帰り) フォーラム終了次第

〇 申込 福島県立医科大学
 TEL 0 2 4 - 5 4 7 - 1 0 4 7
 役場 町民課 保健福祉係
 TEL 4 8 - 5 5 6 5



↑玉入れは、さわやかな秋空に舞い上がりました。



↑「愛のたずね人」では、思わぬ人と二人三脚で愛を？育んだ方も。



↑観戦も町民運動会の楽しみです。



←小学生6名が仲良く選手宣誓



←地区対抗綱引きは、各チーム男女10名ずつの計20名で競い、抜群のチームワークを発揮した宮下チームが勝利。決勝では西方チームとの3本勝負に粘りの逆転勝ち。わずか数cmの大接戦に、会場の盛り上がりも最高潮となりました。



老いも若きも パワー全開！

桐の里町民運動会

さわやかな秋晴れとなった10月14日、桐の里町民運動会が町民運動場で開催され、幼児から高齢者まで多くの皆さんが参加しました。地区対抗種目の長なわ跳びと綱引きや、障害物競走、バドミントンのラケットにピンポン玉を乗せたりレー、男女が二人三脚をする「愛のたずね人」など様々な種目を楽しみ、お昼は家族そろって運動後の美味しいお弁当を味わいました。

久しぶりに町民が各世代にわたって集まった運動会。地域が一つになって楽しんだ最高の一日でした。



↑「宝ひろい」で一斉に走り出す参加者

モットーは「読む・書く・噛む・歩く」
そして、人のためになることを

阿部英敏さん

あべ ひでとし 七十三歳 松原

平成六年から、福島民報の「みんなのひろば」に投稿を続け、掲載なんと七十六回。

「手を振る孫にきずなを感じる」、「偉人たちの苦勞を教訓にしよう」、「松倉隧道の受刑者労働」など、自身の経験に基づいた様々な話題について書き続け、掲載百回を目指しています。

「投稿を続けることにより、よきサポーターに恵まれ、社会に対して責任を持って生活するようになりました。」

と語る阿部さん。平成五年に妻の菅子さんを亡くし、自身も癌を患いましたが、

「一人になって考え方が変わりました。自分のことばかりでなく、人にとってになることをしなければと。病氣も乗り越えることができました。」

と波乱の人生を振り返ります。昭和三十九年から欠かさず週二回、松原駅を清掃し、献血は百十回、さらに福祉センターの花植えなど、身近なボランティア活動に積極的です。また、健康のためのウォーキングは、町内だけでなく会津坂下町や会津若松市に出かけたときも、時間と場所を見つけて歩くそうです。

現在、選挙管理委員を務め、これまで農業委員や統計調査員、消防団松原班長なども歴任し、地域に貢献されてきた阿部さん。

「モットーは、読む・書く・噛む・歩く。実行しなければだめです。」

歳時記 萌の会

土蜘蛛の芋の葉かげの小領土
用すみの田水となりて澄みにけり

西方 小柴 六進子

心の奥尖りしまに虫の声
馬鹿といふ草の実つきし若き頃

名人 小柴 富枝

人口と世帯 10月1日現在（住民基本台帳）

人口	2,233人 (+2)	人の動き	出生3人
(男)	1,050人 (±0)		死亡2人
(女)	1,183人 (+2)		転入1人
世帯数	883人 (±0)		転出0人

広報 みしま 10月号 No.175

発行日 平成19年10月26日
編集 三島町役場 総務課 企画財政係
福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
Tel 0241-48-5515
ホームページ <http://www.town.mishima.fukushima.jp>

山里のおいしい新そば食べ放題！ 200人限定

おおたに新そばまつり

11月18日(日)

午前の部 10時～正午

午後の部 正午～2時30分

○場 所 第1会場：大谷活性化センター
そばまつり、お楽しみコーナー
第2会場：圓福寺
古刹見学、揮毫

○前売券 大人 2,000円
子供 1,000円
限定200枚（午前・午後100枚ずつ）
そば食べ放題、茸、山菜、漬物など

石臼挽きの地粉を使った大谷地区の腕自慢の味が食べ放題！ぜひご賞味ください。

申込 役場 産業建設課 産業係
Tel 0241-48-5533

主催 おおたに新そばまつり実行委員会